

様式(9)

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 保 第 13 号 乙 保	氏 名	南 妙子
審査委員	主 査 雄西 智恵美 副 査 岩佐 幸恵 副 査 安井 敏之		

題 目 看護学生のリスク感性測定尺度の開発と信頼性・妥当性の検討

著 者 南 妙子, 田村 綾子, 市原 多香子

平成 27 年 3 月発行日本看護学教育学会誌第 24 巻第 3 号に掲載予定

要 旨 看護職は医療事故やヒヤリハットの当事者になることが最も多い職種であり、看護基礎教育において医療安全教育を強化することは重要である。本研究目的は、看護学生のリスク感性を把握するための測定尺度を開発し、その信頼性と妥当性を検討することであった。文献検討をもとに作成した質問紙にて一次調査を実施し、リスク感性予備尺度(44項目)を作成した。看護系大学学生 774 名に外部基準尺度項目を含む質問紙調査を実施し、602 名を分析対象とした探索的因子分析および確認的因子分析を行った。その結果、看護学生のリスク感性は【安全行動遂行力】【リスク体験活用力】【リスク情報獲得力】【リスク回避準備力】【リスク対応準備力】【リスク察知観察力】の 6 下位尺度 25 項で構成されたモデルで妥当な適応度が得られた。尺度の Cronbach α 係数は 0.93 であった。外部基準尺度との相関では、安全意識尺度の「安全への関心」「安全への配慮」の 2 下位尺度得点との間に $r=0.5$ ($P<0.01$) の中程度の相関が認められた。認知欲求尺度では $r=0.2\sim0.3$ ($P<0.01$) の弱い相関、失敗傾向尺度では、「衝撃的失敗」と【安全候移動遂行力】の下位尺度間に $r=-0.23$ ($P<0.01$) の弱い相関がみられた。これらの結果から、開発した尺度の内的一貫性、構成概念妥当性が確認されたが、基準関連妥当性の確認については課題が起こった。

以上の内容は、開発した尺度の信頼性・妥当性が確認されたことを示している。本尺度は看護学生のリスク感性に焦点を当てたこれまでにない独創性の高い尺度であり、看護学生のリスク感性の自己評価や安全目標の設定などに活用できると考えられ、今後の医療安全教育を充実していくためにも有用な尺度であると推察できる。看護学生にとどまらず新人看護師への活用も期待でき、その社会的意義は大きく博士の学位授与に値すると判定した。